

凡例 ① 所在地 ② 申請者 ③ 階数 ④ 住戸数 ⑤ タイプ



ソフト+認定

ハード認定

藤和ライブタウン中山



基本情報

- ① 都筑区佐江戸町
- ② 藤和ライブタウン中山
防災委員会
- ③ 地上 4～6 階
地下 0～2 階（8 棟）
- ④ 185 戸
- ⑤ 既存・分譲

ハード認定の概要

【耐震性】

昭和63年竣工

【浸水対策】

内水浸水想定(最大0.04m)があるが、道路面から敷地までの高さが、浸水想定区域の各浸水深よりも高いため問題なし

【防災倉庫】

各棟に防災倉庫等を設置

【防災資機材】

投光器、カセットガスボンベ
発電機、バール等
各棟には、バール・ハンマー・
マンホールフックを必置



▲内水浸水区域



▲防災倉庫



▲防災ロッカー

ソフト+認定の概要

【防災組織】

平時は、管理組合理事会の専門委員会として「防災委員会」を設置
管理組合と自治会が共同で活動
震度 5 強以上の地震発生時に「災害対策本部」を立ち上げ
総務班、生活班、救護班の 3 班で対応

【防災マニュアル】

居住者用、対策本部用を 1 冊に集約
各住戸の活動、災害対策本部の活動を分けて記載
汚水管チェッカー「通る君」を使用したトイレ排水管チェックフローを記載

【飲料水等の備蓄】

各住戸で最低 3 日分、極力 7 日分以上の備蓄
全居住者 1 日分の飲料水等を防災倉庫に備蓄

【防災訓練】

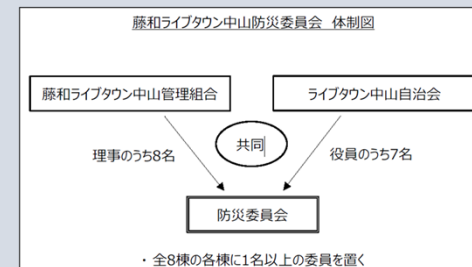
安否確認訓練、救命救助訓練等を実施（令和 6 年度）

【地域との協力体制】

マンション自治会として地域防災拠点運営委員会に参加

【地域との防災訓練】

地域防災拠点運営委員会として避難訓練等を実施



▲防災委員会体制図

【準備】

- 戸を見る担当とトイレから「通る君」を流す担当を決める。
- チェック前に改めて、調査する棟の居住者にトイレを使用しないように声掛けする。
- 基本、最上階の住民に協力いただくが、不在の場合は階下の住民に協力を依頼する。

【調査実施】

- 調査する棟の汚水戸の蓋を開ける。通行人が転落しないように三角コーン等で注意する。
 - トイレを流す担当は協力住戸の便器に「通る君」を入れて、バケツ 1 杯の追い水を用意して、待機する。
 - 戸を見る担当はストップウォッチを持って、ボールが流れてくる時間を測る用意をする。
 - 戸を見る担当が携帯電話で「通る君」を流す担当にスタートの合図を行う。携帯電話が使えない場合は、トランシーバーまたは窓を開けてハンドマイクでスタートを呼び掛ける。
 - トイレを流す担当は、水洗トイレを流すと共に追い水（バケツ 1 杯）をトイレに流す。
 - 戸を見る担当は、着色した水とボールが流れて来たかどうか、流れて来た時間（通常は数十秒以内）を確認して、「排水管調査結果（様式 A）」に記録する。
 - 調査の終わった汚水戸はすみやかに蓋を閉じる。
- ##### 【調査後】
- 担当者は、排水管がつながっている棟の系統毎（1 号棟と 2 号棟、3 号棟単独、4 号棟と 5 号棟、6 号棟単独、7 号棟単独、8 号棟単独）に調査が終わり次第、「排水管調査結果（様式 A）」を災害対策本部に報告する。全棟の確認終了後、「排水管確認一覧表（様式 B）」に集計する。
 - 災害対策本部は、各棟および各排水系統のトイレ使用停止の解除または継続を判断する。

▲トイレ排水管チェックフロー



▲防災訓練の様子